

保育所 自己評価結果

アートチャイルドケア南流山保育園

評価基準a:十分にできている b:おおむねできている c:やや不十分 d:改善を要する /:非該当

保育目標		睡眠と生活リズムを整える事を目指して保育を展開していきます 一人一人の個性と成長に応じたい保育を展開していきます 子どもの「失敗」を受け止める保育を展開していきます	
		評価基準	評価
人権の尊重	1	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	a
	2	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	a
	3	個人情報、個人の人格尊重の理念の下に、慎重に取り扱われるべきものであることを理解している	a
説明責任	4	理念や基本方針が利用者等に周知されている	a
	5	利用者が意見を述べやすい体制が確保されている	a
情報保護	6	利用者のプライバシー保護に関する規定・マニュアル等を整備している	a
	7	守秘義務の意義や目的を全職員に周知している	a
苦情解決	8	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している	a
	9	苦情解決の仕組みが確立され、十分に周知・機能している	a
保育内容（養護と教育）	10	養護は保育士などが行う援助や係わりであり、教育は子どもの活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解し、実践している	a
	11	子どもの生活の連続性を踏まえ、保護者との連携・情報共有が行われている	a
	12	子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	a
	13	室内外問わず、子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	b
	14	基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	a
	15	身近な自然や社会と係わるような機会を多く取り入れている	a
	16	さまざまな表現あそびが自由に体験できるよう、年齢に合わせた環境作りをしている	b
	17	遊びや生活を通して、子どもの社会性が育つよう配慮している	a
	18	外遊びや散歩など、戸外で遊ぶ機会を多く取り入れている（週に4回以上）	a
	19	保育は、環境（人的・物的・社会的・空間的）を通して行われることを職員が理解している	a
虐待の予防	20	生活の場と遊びの場が区分でき、生活に見通しが持てる空間となっている	a
	21	虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届くようになっている	a
	22	虐待を受けていると疑われる子どもが見つかった場合には、所定の用紙に記録を残し、しかるべき対応をしている	a
	23	虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について児童相談所等の関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	a
	24	施設内で、職員による虐待または、虐待と疑われる行為をすることはない	a
特別な支援を要する場合	25	感情を刺激されて思わず不適切な対応等をとる職員がいる場合は、声をかけあったり、その場から一時離れてもらうなど、園内で見逃さずに対応している	a
	26	特別な支援を要する子どもについて、職員間で定期的に話し合う機会を設けている	a
	27	必要に応じて、研修を行い、医療機関や専門機関と連携をとっている	a
	28	保護者と必要に応じて情報の共有を行い、サポートをしている	a
	29	環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している	a

保護者への支援	30	ひとり一人の保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談等を行い相談を受けるとともに、必要に応じて専門の関係機関の相談窓口等を紹介している	a
	31	家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	a
	32	子どもの発達や育児等について、懇談会等の話し合いの場に加えて、保護者同士の子育ての経験を共有できる場を設けている	a
健康支援	33	子どもの日々の健康状態を関係職員に周知しており、一人一人に応じた適切な対応がされている	a
	34	子どもの健康に関する保健計画を作成し、職員間で共有するとともに、子どもの健康の保持・増進に努めている	a
	35	内科健診、歯科検診、身体測定等を定期的に行い、配慮が必要な結果であれば、医師の指示に従っている	a
	36	年齢に応じて、健康・安全な生活に必要な習慣や態度を育成している	a
	37	配慮を要する子どもの食事について、専門医による食事の内容に関する指示のもとで除去食を提供している	a
衛生環境	38	子どもが安全で保健的に過ごせる環境を作っている(清掃等)	a
	39	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している(温度・湿度・換気・音・遮光など)	a
	40	子どもが自分から思わず係わりたくなるような魅力ある環境構成をしている(発達・興味など)	b
全体的な計画・指導計画・記録	41	全体的な計画は、発達過程の共通理解のもと、全職員が参画し、作成されている	a
	40	指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき指導計画を見直している	a
	41	長時間にわたる保育の環境整備がされ、保育の内容や方法に配慮が見られる	a
	42	保育の計画は、0歳から就学前までの一貫したものとなっている	a
	42	保育計画は保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている	a
	43	保育日誌や指導計画を通して、計画・実践・評価・改善のサイクルを利用した自己評価を行うとともに、職員相互の話し合いを通じて明確になった課題を改善している	b
	43	進級児の申し送りは、個人記録等を活用し丁寧に行い、子どもたちの発達や遊びの連続性及び関連性を円滑にサポートしている	a
安全対策・事故防止	44	保育設備、遊具、環境において安全が保たれている	a
	44	感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者に通知、拡大の防止に取り組んでいる	a
	45	事故防止等のチェックリスト(安全チェックリスト等)やヒヤリハットを活用し、危険箇所はすぐに改善または職員間での共有を行い、事故防止に向けて具体的な取り組みを行っている	a
	46	事故の再発防止に関しては、職員間で検証と振り返りを行い、同じ事故を起こさないように努めている	a
	45	調理場、水回り等の衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	a
	46	事故や天災が発生した場合、速やかに対応できる体制づくりができています	a
	47	アレルギーの発症について、配慮が必要な園児がわかり、対応方法が全職員に周知されている	a
	47	不審者などの侵入時に対応できる体制を職員間で共有している	a
	46	全職員に対してSIDSに関する知識が周知され、予防のための取組が行われている	a
研修計画	47	研修に対しての基本姿勢が示され、個々の職員に対する研修計画を立てている	a
	48	研修を受けた内容や結果を職員全体に周知し、保育業務に反映している	a
	49	職員の研修に関する評価を行い次の研修計画に反映している	a

職員の資質向上	50	各職員に期待される役割、目標、人材育成の方法が明確化され、計画的に行われている	a
	51	職員連携が確立されており、経験者が指導するOJTの仕組みができています	a
	52	非常勤職員に対しても資質向上に向け、研修の機会を設けている	a
	53	職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法、規範、倫理が明文化され、職員に周知されている	a
	53	職員が自らの役割と課題を認識し、やりがいや満足感を持てるように人材育成を行っている	b
地域との連携・子育て支援	65	小学校との間で、小学生と園児が交流する機会を設けており、定期的に情報交換するなどの連携体制がある	b
	66	保育所の資源（施設開放、相談援助、交流の場、情報提供）を開放している	a
	67	職員が子育て支援の重要性を認識し、保護者が安心して気持ちよく利用できるように共通認識している	a
	68	実習生等の受け入れマニュアルがあり、保育所の基本姿勢や方針を職員に周知している	a
	69	地域の人材、設備、機能等を活用し、積極的に地域との関係作りをしている	a
	70	関係機関、地域の団体などの情報を職員が共有し、必要に応じた仲介をしている	a
食育	71	職員が食育の基本を理解し、食育の計画を策定している	a
	72	食育を通して子どもたちが食事を楽しむことができる工夫をしている	a
	73	子どもの食生活を充実させるために、家庭へも食育の取組や食事の重要性を説明している	a
	74	文化、習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	a
施設長の責務	78	保育所の役割や社会的責任を適切に果たし、保育所組織の専門性の向上に努めている	a
	79	保育士等・保育所の自己評価等の結果を踏まえ、職員と協力して改善に努めている	a
	80	保育所の専門性を高め、活性化を図るため、自己研鑽に対する援助や助言をしている	a
	81	遵守すべき法令などを正しく理解するための取組を行っている	a

年度末の評価・反省

- ・コロナが5類となり、様々な活動が緩和されてきているが、園内の感染症が定期的に流行していることでなかなか地域との関わりができていない。
- ・主体性保育の実現に向けて、職員間の連携は昨年度よりも大幅に高まってきている。是非、来年度も継続していきたい。
- ・子ども主体・自主性の保育実践に向けて幼児組を中心に大きく環境を変えたことにより、子ども達にも変化が見られた。(自ら進んで取り組む自分で考えて行動する)
- ・前半は延期していた農家交流を実施できたり、人数も揃っていたため充実した食育を行えたと思う。
- ・後半は、職員の人数が減ったり、感染症が流行したり、体調不良が続いたりで忙しかった。自分で予防できることもあったが、人手不足に関してはどうにもできないため、早急な改善を求めたい。
- ・園全体的には、職員が協力し合って運営する事が出来たのではないかなと思う。自分のクラスだけを見るのではなく、人手が足りないクラスに誰もがフォローも入れる体制が整いつつあるのではないかなと思う。
- ・職員間はとても仲が良く人間関係も良好だと思う。しかし、その一方で仲の良さがマイナスとなり職員育成に影響が出てしまっている。
- ・保護者に寄り添い丁寧な保育を行っている。また、保護者から頂いたご意見には迅速な対応を心掛け理解を得ている。
- ・子ども一人一人への理解を深めて保護者との連携や情報共有が行われていた。
- ・外遊びや散歩、戸外で遊ぶ機会を多く取り入れることができた。
- ・支援を要する子どもについて用紙に記録を残したりと全職員が把握できるようになっていた。
- ・研修の機会を多く設け、職員同士で意見を行ったり実践することができ良かった。
- ・環境整備という点で、保育室の棚の上は保護者の目もあるので送迎の時間帯には必ず整理するよう心がけている。
- ・園庭の危険の箇所を見つけたときは職員間で報告し合い、修理したりコーンを置くなどして子どもに怪我がないように努めているが、そのままになってしまう場所もある。
- ・環境面として園庭での怪我が多いように感じたり、ガラスや石などが多いことからヒヤリハットも増えている為、現状をどのように改善して良いかわからずそのままになってしまうこともあった。
- ・コロナでの制限が少しずつ緩和してきたことで、様々な行事や保護者を取り込んだ参観なども行えるようになり、保護者との距離もつめられたと思う部分があったり、保護者の求めるニーズの広がりも感じられるようになってきて保護者対応の難しさを改めて感じた。職員間の連携をしっかりと図り、誰が対応しても同じ対応であることの大切さを改めて感じ、トラブル防止に気をつけていかなければならないと思った。
- ・毎日作成している配置ボードのおかげで乳児組、幼児組の連携が昨年度より強化出来、職員同士で声をかけ合う事も増えてきた。
- ・人員が少ない事もあり、保育側では連携をとれていると感じているが給食・保健との連携がもっととれて子どもたちへの展開がとれたのではないかなとも感じている。次年度へいかしていきたい。
- ・今年度は幼児クラス、全体の保育へ流れが大きく変わり最初こそ戸惑い等もあったが幼児クラスの保育間で考え何が子どもにとって良いか考えながら保育を進めていくことができていた。一方で乳児クラスのことをほとんど把握できていない状況であった。
- ・幼児組合同保育をする中で保育者同士の連携は難しい状況だった。保育園全体を見ると子どもの状況など把握出来ない所もある。会議などで報告を受けているがもっと密にしなければいけないと思う。
- ・コロナでなかなか外部との交流も難しかった。
- ・保育参加の行事などの保育しながら準備等大変だった。その分当日子どもも保護者も喜んで参加して頂いている姿を見て嬉しく感じた。普段見ることのできない親子の触れ合いや話が聞ける機会なので大切にしていきたい。
- ・自分の担当以外の仕事が分からずなかなか協力ができなかったが、表を貼りだしてくれていたことで終わっていないところへ声かけし一緒に進められたので良かったと思う。
- ・職員間の連携により対人数ギリギリの日でも大きな事故無く、年度を終える事が出来ていた。
- ・大きな行事等では職員一丸となって準備を行い、当日も成功させる事が出来た。
- ・職員皆が子どもたちをみつけると「おはよう」、「今日もかわいいね」等明るく声をかけ子どもたちも保育者だけではなく調理の先生、事務の先生にも気軽に話しかけるそんな保育園が「アートチャイルドケア南流山保育園だ」とにかくどこからでもおしゃべりする声が聞こえてきて皆がとても楽しそうだが、仲が良くても今楽しくおしゃべりする場所かまた、そんな場面なのかを子どもも保育者もよく考えるべきだと思う事が多々ある。子どもには「今は頑張る時間」「聞く時間」だと話し、けじめをつけられるよう声をかけているが保育者たちも直すべきところである。
- ・保育所の環境として温度や換気は適度にできるものの湿度が低すぎる事が多々あった。
- ・一人一人の個性や成長に合わせた保育を展開できることもあるが、人員の関係で合同保育となったり、戸外に出られない日もあった。
- ・理念・方針等、一人一人が理解しようと努力し環境等を整えようと園全体で行動することができていた。また、一人一人が違うことを大切に考え、特別な支援が必要な子への対応と職員全員が知れるよう担任の先生の書類を書くなど工夫があった。
- ・今年度行いたいこととして絵本コーナーを改めて作るということがあった。感染症の流行や行事の準備等どうしても後になってしまった。
- ・何かトラブルがあった際は、相手を責めるのではなく何がいけなかったのか、今後どうしていくと良いのかという事をすぐに話し合い行動を移していくことができる園だと思う。トラブルはどう気をつけていてもおこってしまうが、今後も協力して取り組むようにしたい。
- ・食育も活発にはできなかった。
- ・保育士さんは子どもたちの前では明るく笑顔を絶やさず活動していて保護者の方は良い印象を抱いていると思う。
- ・職員体制が整わない中、相談しながら最小限ではあるが食育を行うことができた。
- ・保育室に行く機会が少なかった為、毎回寄り添った関わりができたが不安が残る。
- ・体調不良時快く休みを頂けた。
- ・保育、調理の壁を感じない。
- ・たくさんのお子さん・保護者の方がいる中で個々に丁寧に対応していたと思う。
- ・保育士の人数に余裕がない今、制作物などパート職員の作り物を減らし保育に入れるよう工夫している。全員での協力は今まで通り続けていくと共にクラスのこと、行事についても全員で考えアイデアを出し合い、協力して行っていくようにした。

次年度へ向けた保育所としての課題

- ・地域との関り、特に子育て支援や積極的な地域交流の場を設ける。
- ・主体性保育に向けて園全体で同じ目標を持って取り組む姿勢が必要。
- ・保護者同士の子育ての経験を共有できる場を設けてみる。
- ・子どもの遊びの幅を広げられるよう、室内の環境づくりや園庭の利用の仕方を考えていけたらと思う。
- ・人不足の解消。
- ・園庭の整備として業者が入る前段階として役割分担があると良いと感じた。(報告、周知しやすい)倉庫の清掃を含めテラスや棚のめかくしなども風ではずれてしまうなど皆で共有しながらできる所は直していければと思う。
- ・園としての強みであったり、園としての特色になり得るような取り組みや子育て支援等も行っていきたい。
- ・それぞれのクラスの取り組みや幼児、乳児ごとの取り組みの成果も進級へ向けた保護者会の中でだけでなく定期的に発信したり、掲示をしたりしていても良いかと思うので、無理のない範囲で行っていきたい。
- ・園全体での連携。給食、食育内容強化と日頃より保育をみて子どもの現状を知って欲しい。保健、手洗い指導や体のしくみなどについて展開など保育側からも発信していく。
- ・乳児、幼児、調理とそれぞれがどのようなことをしているか、園全体で見通しを持てるようしていく。
- ・少しずつ、外部との交流もしていきたい。
- ・保育からぬけられず書類や行事の準備をする機会をつくれぬクラスもあるので全体で仕事内容の把握ができれば良いと感じた。
- ・職員が時間に追われてしまい、子どもたちが落ち着かなくならないようお互い声をかけ合っていっていき怪我があまり無いようにしていく。
- ・共有していく情報を「見ていなかった」「知らなかった」とならないように一人一人が意識をして日々の確認を行っていく。
- ・時々起こる悲しいニュースで保育者がみていない所での事故がある。保育者同士がおしゃべりしていたから見逃したなど絶対にあってはならない事だ。広い園庭、どこに子どもたちが散らばっていても全員(保育者)で分担してみたいと思う。環境作りは他園の園庭をのぞいてみたり参考にできるような事を提案してみたり皆で良い場所になるよう手助けをしていこうと考える。
- ・保育所内の環境は適当なものか分かりやすくする。また適宜チェックする。
- ・子供たちが保育者の意思で行動する事がなく子供自身が安心して来てくれるよう引き続きしていきたいその様に思ってもらえる園でありたいと思う。保育者同士の連携も入れつつ子供の豊かな感性を引き出せる様な保育園なので次年度も同じ思いで進めれば良いと思う。
- ・個別援助等が必要な子が多いので話し合い等周知できるか環境を整える。
- ・遊びの環境等、整備。

- ・人材の確保。
- ・職員の定着率の向上。
- ・人手不足の解消。
- ・人間関係の改善。
- ・人材の確保。
- ・安定した職員体制
- ・充実した食育。
- ・保育、調理の協力。
- ・今年度もゆとりがあったわけではないのに来年度はさらに職員の数が減り、先生への負担が大きくなると思う。早急の人員確保が必要だと思えます。